

町民の広場



藤井 俊宏 さん

町議会 傍聴席から

私が議会を初めて傍聴したのは1986年（昭和61年）9月頃だと記憶しています。

小学校統廃校の問題が持ち上がりよく議会と委員会の傍聴に顔を出したものです。

いろいろありましたが議員の方々は膝をつき合わせ話をしたものです。

このようなことで一年に数回は議会の傍聴に行くようになりました。

昭和から平成、また年号が変わろうとしています。傍聴席に座ると、以前の議員の方々の顔が浮かびます。

当時の議員の方々は今、だれもいません。（時間がたっているのあたりまえですが）

あの議席にはだれが座っていたのか、当時の議長席には、と思いつくことがあります。

最近、地方議会の危機が全国の町村から聞こえてきます。俱知安町では町議会議員の選挙も賑やかに行われ見る限りにおいては議会の危機は無いように思われます。しかし、選挙後はどうでしょうか、

議会の中で活発な議論が行われているのでしょうか、もちろん各委員会では行われてい

るかもしれませんが私たちが本番と思っています。この多様な社会の中で、地方もこのことに対応していくことが求められていると思います。

以前は町、地域での道路・除雪・集会所の設置などハード面の要求が行政の多くを占めていたと思います。現在はおそらく町全体で共通の課題を考えなくてはならないことが多くなつたと思います。

そのためには議員の方々は議員提案による条例案など政策立案することも重要な役割を担うのではないのでしょうか。

（もう行っていると思いますが）議会は首長の承認機関になつては駄目だと思いません。国政で行われている「党派拘束」のような「会派決定」による表決権の拘束」の行使は無くし議論を戦わせ、議会の活性化を望みます。

今はパソコンで議会の様子が見られます。開かれた議会になつていると思えますが町民はまだまだ議会を知らないと思います。可能でしたら、日曜日・夜の議会が一年間で2〜3回でも開催されると関心は高まると思います。

役場新庁舎建て替えも決まりました。議場ですが出席議員の全てが見える傍聴席の配置を考えていただきたいです。

それと女性議員がもっといたら違うと思います。いづれにせよ「地方議会ガンバレ」とエールを送りたいです。地方議会の頑張りには国政にもつながっていくと思います。

議長室からこんにちは

びんちゃん

2月8日から平昌冬季オリンピックを視察してきました。平昌「びんちゃん」と聞き「くつちゃん」となって似た響きと親近感を持ちながら各施設を見回りました。平昌の夏は涼しく年間100万人もの観光客が訪れ、冬はスキーリゾートとしてウインタースポーツの中心地です。しかし体感気温は低く、大陸からの刺すような風は気まぐれで選手は勿論、観客も相当に苦しんでいたようです。

2026年札幌冬季オリンピック招致を平昌中心部のジャパンハウスで安倍総理を先頭にPRしてきました。

札幌は勿論、俱知安・ニセコなど開催地候補の大型パネルコーナーに世界各国の皆さんが関心を示され、多くの質問が寄せられています。

俱知安町出身の古谷沙理選手のバイアスロン競技も応援してきました。旭ヶ丘スキー場の3倍ほどの会場の競

技環境は良好でしたが、夜8時からの競技は見る方も寒さとの戦いで、立見席から背の高い外国人の肩越しからの応援の声は古谷選手には届かなかつた気がします。

韓国の国家的事業としての平昌オリンピックは、素晴らしい評価です。俱知安町はオリンピック、G20など国際的に大きなイベントが続きますが、何よりも町民が心ひとつになり世界の皆様を気持ちよく迎えることのできる「歓迎力」が大切です。



俱知安町議会議長

鈴木 保昭